

し居り候様子に候。

先は右申上度如此に候。時下折角御自愛專一に祈り上候。草々拜具。

(藝文第五年第十號、大正三年八月十日晩認む、波得堡にて)

## アレキサンダー三世博物館

### 露都到着の前日

露西亞の旅も明けた今でははや二年の昔となつた、朝鮮、滿洲、シベリヤかけての長い汽車に飽きはてゝ、明日はいよいよ露都に着くといふ七月二十四日、ウヤツカから乗り合せたある露人の話にペチエルブルグには労働者の大ストライキが起つて、電車も動かねば馬車も動かぬ、あちらにもこちらにもピストルの音がするし、火災は頻に起る、停車場についてもとても荷持ちは雇へまいのことであつた、慌てることにかけては決して引けをとらない同室の英吉利人は頻りに早調子の舌打ちをしながら、幾つものカバンを紐で縛つて見たり、ほどいて見たり、しまいには振り分けに肩にかついで室の中でシコを踏むで見たりして居つたが自分丈けの手まはしでは足りなかつたと見えて、ついには我が輩のカバン迄提げて見て「可なり重い」などゝ心配して呉れた、漸やく此の長程を辿り終つて明日はゆつくりホテルにでも落ちついてと楽しみにして居る矢先きであつたので、實際自分も少からず情なく感